

2023年度 第3四半期決算

2024年1月31日
富士電機株式会社

皆さんこんにちは。経営企画本部を担当しております荒井です。
私から2023年度第3四半期決算について説明いたします。

1.	2023年度 第3四半期実績(対前年)	P. 3
2.	貸借対照表	P. 12
3.	2023年度 業績予想(対10/26予想)	P. 14
4.	補足資料	P. 16

1. 2023年度 第3四半期実績 (対前年)

第3四半期累計 連結業績概要 (対前年)

売上高、営業損益、経常損益、純損益は過去最高を更新

	(単位:億円)		
	2022年度	2023年度	増減
売上高	6,908	7,597	689
営業損益	424	577	152
(営業利益率)	(6.1%)	(7.6%)	(1.4%)
経常損益	413	566	154
特別損益	83	60	-23
税金等調整前 四半期純損益	496	626	130
法人税等	164	211	47
非支配株主に帰属する 四半期純損益	43	43	0
親会社株主に帰属する 四半期純損益	290	373	83

(期末レート:12月末)	(単位:円)		
US\$	132.70	141.83	9.13
EURO	141.47	157.12	15.65
RMB	19.01	19.93	0.92

(平均為替レート)	(単位:円)		
US\$	136.51	143.29	6.78
EURO	140.59	155.29	14.70
RMB	19.88	19.98	0.10

売上高増減	
海外子会社の為替換算差による増収	+118
需要増	+570

営業損益増減	
物量・生産増	+210
固定費増	-143
為替影響	+20
その他*	+66
	+152

*コストダウン、価格変動、機種構成差等

営業外損益増減	
金融収支	-6 (15 → 8)
為替差損益	13 (-8 → 5)
その他	-6 (-18 → -24)
	2 (-12 → -10)

特別損益増減	
投資有価証券売却損益	-29 (89 → 60)
その他	6 (-5 → 0)
	-23 (83 → 60)

©2024 Fuji Electric Co., Ltd. All rights reserved.

4

前年度と比較して、売上と損益について説明いたします。

第3四半期の連結ですけれども、売上高、営業損益、経常損益、純損益いずれも過去最高を達成することができました。売上高につきましては689億増の7,597億。為替の換算差を抜きましても実需で570億の増となります。

営業損益は152億増の577億、利益率で1.4%増の7.6%となりました。

営業外損益では為替益が13億ありまして、マイナス影響もありますが、トータルで対前年プラス2億となります。

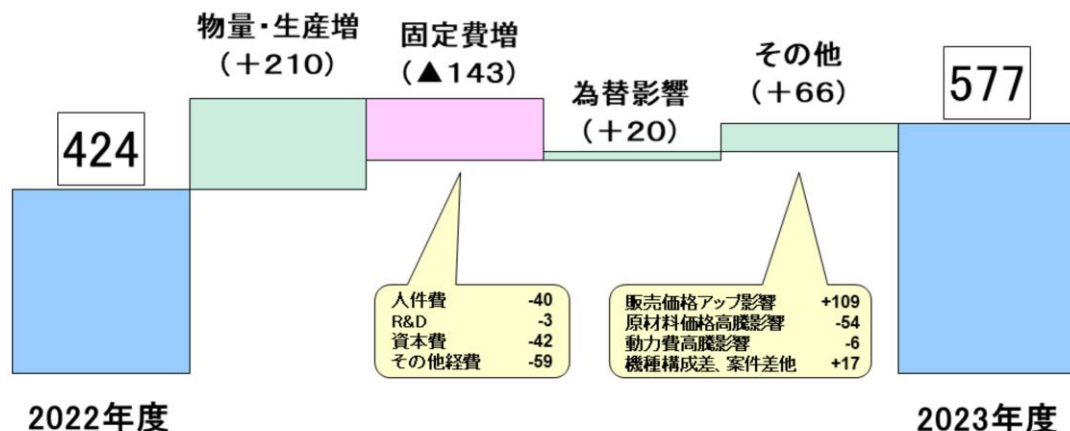
経常損益で154億増の566億。特別損益が対前年マイナス23億で、前年に比べ投資有価証券の売却益が少なくなりましたが、絶対額としては60億のプラスとなります。

純損益では、83億増の373億となっております。

第3四半期累計 営業損益増減分析 (対前年)

原材料価格高騰や人件費等の固定費増による悪化影響があるものの
物量・生産増や販売価格アップ等により増益

(単位:億円)



©2024 Fuji Electric Co., Ltd. All rights reserved.

5

営業損益、152億増の内容につきまして、階段グラフで説明いたします。

一番大きな要因が物量・生産増で、210億のプラス、残念ながら器具部門がマイナスでしたが、半導体の電装分野、施設・電源システム、ファクトリーオートメーション、店舗流通で大幅に増加しました。

一方固定費は、人件費が海外と国内半分ずつ計40億の増。半導体を主体にした資本費が42億の増。その他経費で59億の増。事業の拡大に伴い、管理可能経費、あるいは外注委託費が増えています。固定費として損益的には計143億のマイナス要因ということになります。

為替では20億のプラス。

その他では原材料価格の高騰と動力費のアップで60億ほどのマイナス要因がありますが、販売価格のアップでカバーしました。機種構成差、案件差ということでは、前年の発電の案件の影響で損益率がアップしたことなどで改善しています。その他の項目としてトータルでは66億改善しており、合計すると全体で152億の対前年営業損益アップとなります。

第3四半期累計 セグメント別売上高・営業損益 (対前年)

売上高は、全セグメントで増収
営業損益は、インダストリー、半導体、食品流通で増益

(単位:億円)

	2022年度			2023年度			増減		
	売上高	営業損益	営業利益率	売上高	営業損益	営業利益率	売上高	営業損益	営業利益率
エネルギー	2,257	153	6.8%	2,293	144	6.3%	36	-8	-0.5%
インダストリー	2,422	41	1.7%	2,791	115	4.1%	369	73	2.4%
半導体	1,469	225	15.3%	1,665	264	15.9%	196	40	0.6%
食品流通	684	29	4.2%	795	69	8.7%	111	40	4.4%
その他	432	25	5.7%	467	30	6.4%	35	5	0.7%
消去または全社	-356	-48	-	-414	-46	-	-58	2	-
合計	6,908	424	6.1%	7,597	577	7.6%	689	152	1.4%

※ 2022年度実績は、2023年度の事業組替の数値を反映しています。

©2024 Fuji Electric Co., Ltd. All rights reserved.

6

セグメント別に売上高、営業損益を対前年で比較しております。

インダストリー、半導体、食品流通で増収増益となりました。エネルギーに関しては増収ですが、残念ながら器具部門のマイナスにより若干の減益です。

第3四半期累計 セグメント別概況①(対前年)

(単位:億円)

		2022年度	2023年度	増減	概況
エネルギー	売上高	2,257	2,293	36 +37*	発電プラント 21%減収 前期の再生可能エネルギー大口案件の影響等により売上高、営業損益ともに前年同期を下回りました。 エネルギーマネジメント 10%増収 産業向け変電機器及び電源機器の大口案件の増加等により、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。 施設・電源システム 25%増収 データセンター及び半導体メーカー向け案件の増加により、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。 器具 10%減収 機械セットメーカー及び半導体製造装置関連の需要減少等により、売上高、営業損益ともに前年同期を下回りました。
	営業損益	153	144	-8 +3*	
インダストリー	売上高	2,422	2,791	369 +33*	オートメーション 9%増収 ファクトリーオートメーションにおけるコンポーネントの生産増を主因に、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。 社会ソリューション 26%増収 原子力関連機器案件や放射線機器案件の増加等により、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。 設備工事 25%増収 空調設備工事の大口案件等により、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。 ITソリューション 12%増収 公共及び文教分野の大口案件等の需要増加により、売上高は前年同期を上回りましたが、営業損益は案件差等により前年同期を下回りました。
	営業損益	41	115	73 +3*	

※ 2022年度実績は、2023年度の事業組替の数値を反映しています。 *為替影響

©2024 Fuji Electric Co., Ltd. All rights reserved.

7

サブセグメント別に内容についてご説明いたします。

エネルギーセグメントは売上が36億増、営業損益が8億のマイナスでした。

発電プラントにつきましては、前年に大口の案件、再生可能エネルギーの大口の案件があった関係で減収、若干の減益となります。

エネルギーマネジメントは増収増益。変電機器、電源機器の大口の案件の増加によりプラスでした。

施設・電源システムは大幅に増収増益。データセンター向けや半導体メーカー向け、特に海外で増えました。

器具は減収減益ということで、国内外の機械セットメーカー、半導体製造装置関連の需要が減少しました。

インダストリーセグメントは、売上が369億増、営業損益が73億増でした。

オートメーションは特にファクトリーオートメーションにおけるコンポーネントの生産増を主因として増収増益。

社会ソリューションは原子力関連、放射線関連で大幅に増収増益。

設備工事は大幅に増収、損益は1桁台のアップです。

ITソリューションは、増収ですが損益はほぼ横ばいの状況です。文教分野や公共分野で大口の案件が取れたことで増収となっております。

第3四半期累計 セグメント別概況②(対前年)

(単位:億円)

		2022年度	2023年度	増減	概況											
半導体	売上高	1,469	1,665	196 +47*	電動車(xEV)向けパワー半導体の需要拡大により、売上高は前年同期を上回りました。 営業損益は、パワー半導体の生産能力増強に係る費用の増加、原材料価格の高騰があったものの、 売上高の増加により、前年同期を上回りました。											
	営業損益	225	264	40 +14*												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>売上高内訳</th> <th>2022年度</th> <th>2023年度</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>産業</td> <td>785</td> <td>736</td> <td>-49</td> </tr> <tr> <td>電装</td> <td>684</td> <td>929</td> <td>245</td> </tr> </tbody> </table>					売上高内訳	2022年度	2023年度	増減	産業	785	736	-49	電装	684	929	245
売上高内訳	2022年度	2023年度	増減													
産業	785	736	-49													
電装	684	929	245													
食品流通	売上高	684	795	111	自販機 9%増収 国内の需要拡大に加え、原価低減の推進等により、 売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。 店舗流通 23%増収 コンビニエンスストア向け店舗設備機器の改装需要拡大に加え、カウンター機材案件の増加により、 売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。											
	営業損益	29	69	40												

*為替影響

©2024 Fuji Electric Co., Ltd. All rights reserved.

8

半導体セグメントは売上が196億増、営業損益が40億増でした。

産業分野は減収、若干の減益です。

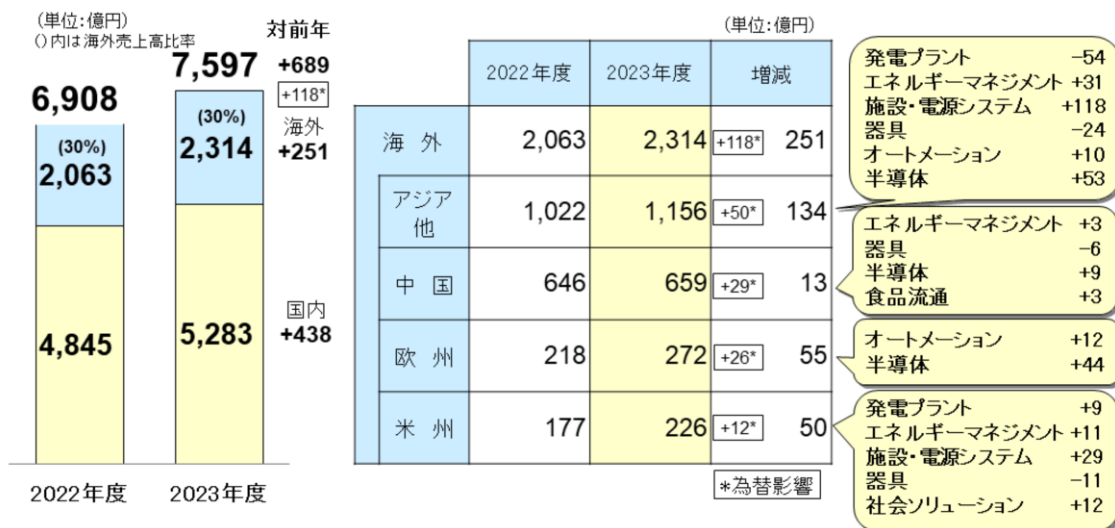
一方電装分野は、設備投資による資本費の増加、原材料価格の高騰の影響がありましたが、コストダウンや売値アップなどもあり、大幅に増収増益となりました。

食品流通セグメントは、売上高が111億増、営業損益が40億増でした。

自販機、店舗流通ともに増収増益。特に店舗流通でコンビニエンスストア向け改装案件とカウンター機材の案件が増え、大幅に増収増益となりました。

第3四半期累計 国内/海外・地域別売上高 (対前年)

**全ての地域で増収
(中国は為替影響を除くと減収)**



※ 2022年度実績は、2023年度の事業組替の数値を反映しています。

海外と国内の売上高です。

海外で251億増、これには為替による増も含んでおります。

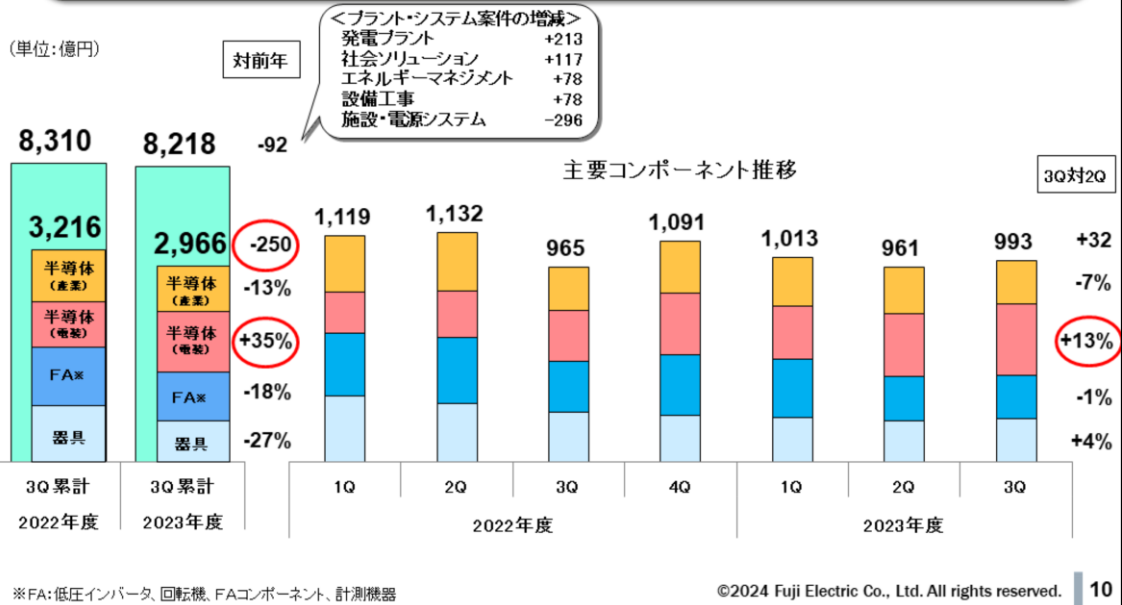
国内で438億増で、対前年でトータル689億増でした。

海外の251億増を地域別に見ますと、アジアを中心に全ての地域で増収でしたが、市況の影響もあり中国は為替を除くと実質的には減収でした。

部門別に見ますと、アジアでも中国でも米州でも器具分野は弱含んで推移しました。

第3四半期累計 主要コンポーネント 受注高

半導体(電装)は好調継続も、産業向けコンポーネントは減少



主要コンポーネントの受注高、対前年増減です。全体の受注高は、92億減の8,218億で、プラント・システム系が増えております。

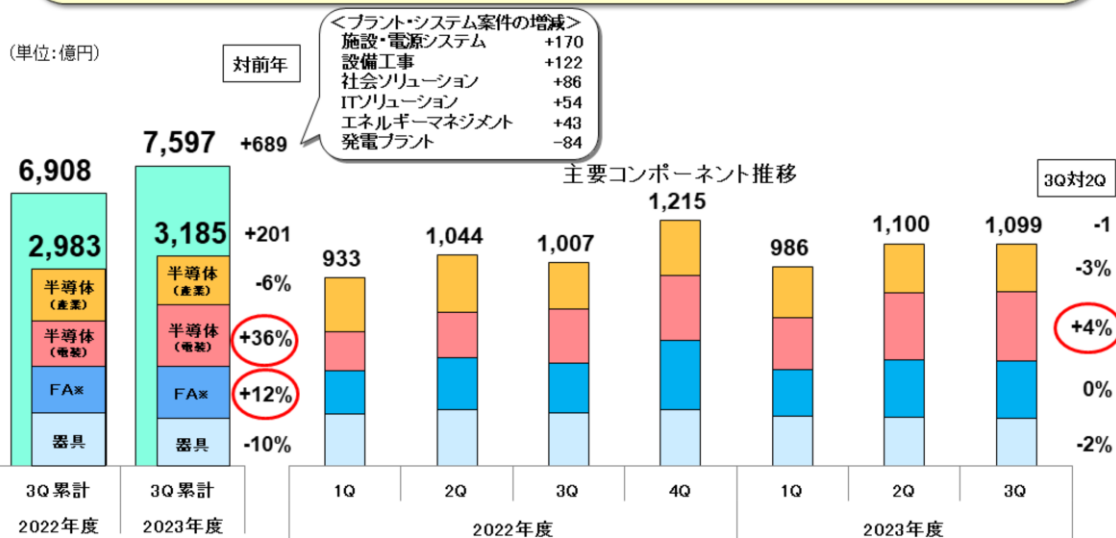
施設・電源システムは前年に大口案件の前倒し受注がありマイナスですが、発電プラント、社会ソリューション、エネルギーマネジメントでプラスになっております。一方、主要コンポーネントについては250億減の2,966億となりました。

半導体の電装分野につきましては、35%の大幅増でしたが、ファクトリーオートメーションや器具は前年に前倒し受注があった影響もありますが、市況の関係もあり、それぞれ2桁のマイナスとなっています。

右端に3Q対2Qを記載していますが、やはり電装分野は2Qに対して3Qで13%増となっております。

第3四半期累計 主要コンポーネント 売上高

半導体(電装)、FAは増加



主要コンポーネントの売上高です。

売上高全体としては689億増ですが、主要コンポーネントで、201億増の3,185億となっています。半導体の電装で36%増、ファクトリーオートメーションは前年の前倒しの受注や注残もあり、12%増となっています。

器具分野についてはマイナスとなりました。

3Q対2Qですが、半導体の電装は4%のプラス、ファクトリーオートメーションは2Qと同レベルになりました。

2. 貸借対照表

第3四半期末 連結貸借対照表 (対前年度末)

資産の部				負債、純資産の部			
	23/3/31	23/12/31	増減		23/3/31	23/12/31	増減
現金及び預金	847	525	-322	買入債務	2,016	1,832	-184
売上債権	3,885	3,636	-249	有利子負債	1,833	1,752	-81
棚卸資産	1,987	2,387	400	その他負債	2,246	2,318	72
その他	417	619	203	負債 合計	6,095	5,902	-193
流動資産 計	7,136	7,168	32	資本金	476	476	-
有形固定資産	2,839	2,938	99	資本剰余金	460	460	0
無形固定資産	240	252	12	利益剰余金	3,649	3,850	201
投資その他の資産	1,600	1,587	-14	自己株式	-74	-74	-0
固定資産 計	4,679	4,776	97	株主資本	4,511	4,712	201
繰延資産	1	0	-0	その他の包括利益累計額	660	774	114
資産 合計	11,816	11,945	129	非支配株主持分	550	557	7
ネット有利子負債※1	991	1,232	241	純資産 合計	5,721	6,043	322
ネットD/Eレシオ※2	0.2倍	0.2倍	0.0倍	負債・純資産 合計	11,816	11,945	129
自己資本比率	43.8%	45.9%	2.2%				

※1 ネット有利子負債：有利子負債-現金及び現金同等物
 ※2 ネットD/Eレシオ：ネット有利子負債 ÷ 自己資本

3月31日と12月31日の比較のバランスシートです。

コロナの影響が少なくなったということもあり、現預金を正常ベースに近づけるために322億絞りまして、525億となりました。

売上債権は3月までに積み上がったプラント系を主体に回収が進み、249億減。一方、3月末に向けて棚卸資産がプラント系を主体にして400億の増。パワー半導体を主体とした設備投資により有形固定資産は99億のプラス、総資産は129億増の1兆1,945億になりました。

純資産では利益剰余金が201億増の3,850億になりました。ネット有利子負債は241億増の1,232億。ネットD/Eレシオは0.2倍。自己資本比率が約46%になりました。

3. 2023年度 業績予想 (対10/26予想)

通期 連結業績概要 (対10/26予想)

第3四半期決算を踏まえ、通期業績予想を上方修正

(単位:億円)	10/26予想	1/31予想	増減	4Qの前提為替レート		
				US\$	EURO	RMB
売上高	10,600	10,700	+11* 100	10/26予想 ¥140.00	10/26予想 ¥150.00	10/26予想 ¥19.50
営業損益 (営業利益率)	960 (9.1%)	1,000 (9.3%)	+7* 40 (0.2%)	1/31予想 (変更なし)	1/31予想 (変更なし)	1/31予想 (変更なし)
経常損益	945	990	45	為替感応度* (億円)	0.2	0.5
親会社株主に帰属する 当期純損益	645	680	35	*営業損益ベース(1-3月の3ヶ月影響) US\$, EUROは1円円安変動影響, RMBは1円円安変動影響		

(単位:億円)	10/26予想		1/31予想		増減	
	売上高	営業損益	売上高	営業損益	売上高	営業損益
エネルギー	3,320	270	3,310	263	+11* -10	+2* -7
インダストリー	4,060	326	4,100	329	40	3
半導体	2,230	343	2,240	357	10	+5* 14
食品流通	990	65	1,040	77	50	12
その他	600	38	610	42	10	4
消去または全社	-600	-82	-600	-68	0	14
合計	10,600	960	10,700	1,000	100	40

©2024 Fuji Electric Co., Ltd. All rights reserved.

15

第3四半期までの決算を踏まえ、通期の業績予想を上方修正しております。

売上高は、10月の予想と比べ100億増の1兆700億。営業損益については40億増の1,000億。営業利益率が0.2%アップで9.3%。経常損益が45億増の990億。当期純損益が35億増の680億。当期損益率は6.4%となります。

部門別にはエネルギーは、器具部門のマイナス影響により減収減益。インダストリー、半導体、食品流通は、増収増益ということで、売上100億増、営業損益で40億増になります。

経費は少し硬めに見ていることもあり、10億程度削減の余地があると考えております。

為替レートは10月と変えておらずUSドルで140円、ユーロで150円、人民元で19.5円です。為替が現状のレベルで推移すれば、さらに10数億の利益増に繋がると考えております。

前回の説明会でお話した際は、営業損益で大台を目指したいというような表現をしておりましたが、今回ははっきりと1,000億を目標に掲げ、まとめていきたいと考えております。

今回の営業損益率は9.3%ということで、2024年度から始まる中期経営計画を現在まとめていますが、2桁の営業損益率を目指せるベースができたと感じています。

4. 補足資料

補足資料

■器具受注高

	3Q (対2Q)	3Q (対前年)
全体	+4%	-15%
国内	+10%	-25%
海外	-9%	+40%

3Q累計(対前年)
-27%
-31%
-13%

■低圧インバータ受注高

	3Q (対2Q)	3Q (対前年)
全体	-3%	-20%
国内	+17%	-36%
海外	-11%	-9%

3Q累計(対前年)
-39%
-47%
-35%

■半導体受注高

	3Q (対2Q)	3Q (対前年)
全体	+5%	+20%
産業	-7%	-3%
電装	+13%	+39%

3Q累計(対前年)
+9%
-13%
+35%

■自販機受注高

	3Q (対2Q)	3Q (対前年)
全体	-6%	-5%

3Q累計(対前年)
+9%

補足資料 通期 連結業績概要(対前年)

(単位:億円)	2022年度 実績	2023年度 1/31予想	増減
売上高	10,094	10,700	+93* 606
営業損益 (営業利益率)	889 (8.8%)	1,000 (9.3%)	+23* 111 (0.5%)
経常損益	878	990	112
親会社株主に帰属する 当期純損益	613	680	67

(単位:億円)	2022年度 実績		2023年度 1/31予想		増減	
	売上高	営業 損益	売上高	営業 損益	売上高	営業 損益
エネルギー	3,333	286	3,310	263	+44* -23	+6* -23
インダストリー	3,698	268	4,100	329	+24* 402	+4* 61
半導体	2,062	322	2,240	357	+25* 178	+13* 35
食品流通	953	44	1,040	77	87	33
その他	598	37	610	42	12	5
消去または全社	-549	-67	-600	-68	-51	-1
合計	10,094	889	10,700	1,000	606	111

*為替影響

※ 2022年度実績は、2023年度の事業組替の数値を反映しています。

©2024 Fuji Electric Co., Ltd. All rights reserved.

1. 本資料は法律に基づく監査手続の対象外であり、本説明会の時点において、法律に基づく財務諸表の監査手続は終了していません。
2. 本資料及び本説明会に含まれる予想値及び将来の見通しに関する記述・言明は、弊社が現在入手可能な情報による判断及び仮定に基づいております。その判断や仮定に内在する不確実性及び事業運営や内外の状況変化により、実際に生じる結果が予測内容とは実質的に異なる可能性があり、弊社は、将来予測に関するいかなる内容についても、その確実性を保証するものではありません。
3. 本資料は、情報の提供を目的とするものであり、弊社の株式の売買を勧誘するものではありません。
4. 目的を問わず、本資料を無断で引用または複製することを禁じます。